

## (1) AMEDの予算、人材、体制

- ◆ 科学技術力は日本の成長の原動力であり、国際競争力の観点において今後も**AMEDの予算拡大**が必要
- ◆ 中長期的に渡る産学官連携パートナーシップによるプロジェクトを推進するために、AMEDが数年に渡って機動的に使用できる予算を確保するために、**AMEDに基金を創設**
- ◆ AMEDの運営費交付金の増額等による、プロジェクトを効果的に運営するための、**正社員の増員、外部人材の招聘、AMED組織の強化**
- ◆ ビッグデータ利活用やAI等の**新規技術を専門的にサポートする体制の拡充**

## (2) オープンイノベーションの更なる推進

- ◆ これまで中心だった共同研究的な「1対1」の連携から、「**1対多**」、更に「**多対多**」のプロジェクトの推進
- ◆ **GAPFREE、CiCLE**等事業の**継続・拡大**
- ◆ 事業の企画段階からのAMEDと産業界との連携

## (3) レギュラトリーサイエンスの推進

- ◆ **PMDAとの連携**を一層強化し、医薬品等規制調和・評価研究事業などにおける**成果**を、薬事規制に関するガイドライン等の作成へと**確実につなげる**取り組みの強化

## (4) 人材育成

- ◆ ゲノム医療を実践するための、疫学研究者、研究倫理専門家、遺伝カウンセラー等、医療分野のビッグデータの扱いに長けたデータサイエンティスト、AI人材など**多様な人材の育成**が重要
- ◆ 将来を担う**若手研究者育成**のために、研究助成、若手枠の更なる拡大が必要

## (5) 既存事業の拡充

- ◆ **アカデミア創薬推進、BINDS、DISC**等既存事業の拡充